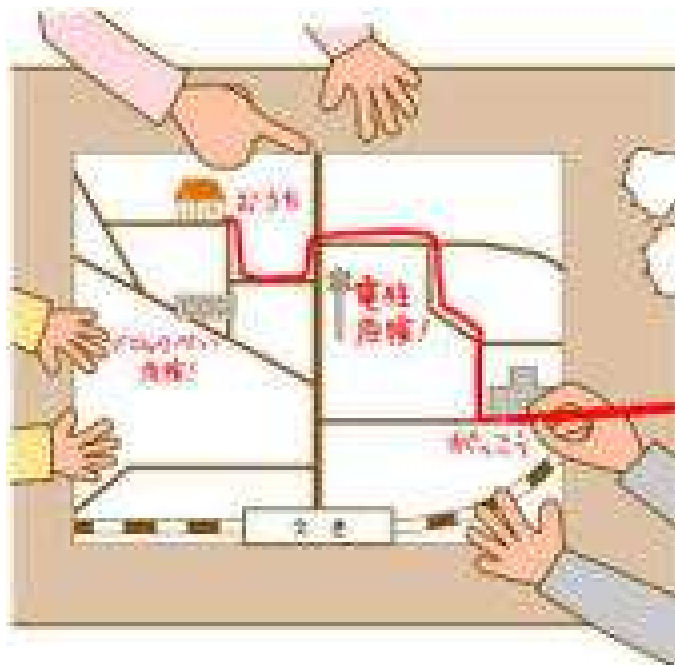


2015. 4 初版

2016. 4 改訂

防災マップ作成の手引き



I 事前準備（町内会長と自主防役員による作業） P. 1

II 「DIG」の実施 P. 2

III 「防災まち歩き」の実施 P. 4

IV 「防災マップ」の作成 P. 4

島田市危機管理課

☎ 36-7143

I 事前準備（町内会長と自主防役員による作業）

1 対象とする自然災害

- ・地震、水害、土砂災害とします。

2 対象とする区域

- ・町内会全域とします（住居、人命に影響が無い区域は除く。）。
- ・広い区域を有する町内会は「防災マップ」を作成しやすいよう、いくつかのブロックに分けます（例：2～3組の範囲を1ブロックに区分する）。



3 参加者と実施会場の手配

- ・ブロックごとに居住している人を6～8人程度のグループとして、参加を募ります。
- ・民生・児童委員や地元消防団にも参加を要請します。
- ・実施会場と日時を決めます（事前に決められない場合には、その都度調整して決定）。
- ・マップ作成などの作業に必要な会場の手配とグループ数のテーブルを用意します。〈資料1〉

4 役割分担

- ・講師、アドバイザーは、危機管理課職員が担当します。
- ・グループリーダーを1名決めます。

5 文具類の準備

次のものを用意します。

(1) 地図

現在の町内会及び指定避難所を含めた周辺の地図

「DIG」・「防災まち歩き」に使用するもの

- ・住宅地図（著作権の条件をクリアする必要がある。）

- ・【推奨】4×3印刷（<http://latlonglab.yahoo.co.jp>）拡大を最大にして印刷〈資料2〉

「防災マップ」の作成に使用するもの

- ・都市計画図などの縮尺が2500分の1程度の図面

（相談に応じて危機管理課で拡大コピーします。）

(2) 消耗品（ブロック数分）

ア 油性のマジック（クレヨン、色鉛筆でも可）

地図に書き込むために使用

太字・細字両用のもので12色程度

イ のり又はセロハンテープ

地図同士を貼り合わせるために使用

ウ ふせん紙



地図上での表示、意見の書き出しに使用
大75×75mm、中25×75mm、小15×50mmの3種類

エ カラーシール

地図上での表示

丸シール(小) (赤、青、黄、緑)

オ ハザードマップなどの資料

土砂災害ハザードマップ、洪水ハザードマップ、その他の資料



II 「DIG」の実施

1 DIGとは

DIG (ディグ: Disaster Imagination Game) とは、地震や豪雨、台風などの時にどのような災害が発生するかを地図上で想定し、地域の特長や課題を作成した地図から読み取り、必要な対策等を考える訓練です。

2 目的

- ・地図上に災害危険箇所等を書き込み、情報共有を図る。
- ・避難体制や※要配慮者（避難行動要支援者）対策などの検討を行う。
※高齢者、障害者、乳幼児、妊婦、外国人その他の特に配慮を要する人



3 実施上の注意

- ・DIGに正解はありませんし、参加者の優劣を求めるものではありません。
- ・グループリーダーが中心となって、グループをまとめていきましょう。
- ・自由に発言、意見交換ができる雰囲気づくりをしましょう。
- ・人の意見をよく聞き、異論がある場合には代案を示しましょう。
- ・次のステップ「防災まち歩き」で現状の確認、新たな発見ができるよう、小さな事柄でも地図に書き込みましょう。



4 マップの作成

(1) 「まちの構造、つくり」の確認及び色塗り

ア 道路

- ・主要・幹線道路（センターラインのある道路）を「オレンジ色」に塗りましょう。
- ・狭い道路（幅2m未満）、路地を「ピンク色」に塗りましょう。
- ・上記以外の道路は塗りません。





イ 鉄道

- ・鉄道を「黒色」でなぞりましょう。





ウ オープンスペース

- ・広場、公園、オープンスペース（学校、神社、空き地など）を「黄緑色」に塗りましょう。

エ 水路、用水、河川等

- ・幅が広い水路、用水、河川などの自然水利を「青色」に塗りましょう。暗渠、側溝などの水路は塗りません。
- オ 鉄筋コンクリート建造物
 - ・ビル、マンションなど（鉄筋コンクリート造）で浸水時に駆け込みができる建物（地震に伴う火災発生時に延焼防止になりそうな建物）の輪郭線を「紫色」でなぞりましょう。
- カ S56以前の木造住宅
 - ・大規模地震による被害が想定されるS56以前の木造住宅の輪郭線を「黄色」でなぞりましょう。
- キ 空き家などの建造物
 - ・空き家などの建造物の輪郭線を「青色」でなぞりましょう。

(2) 浸水、土砂災害の危険箇所の確認及び色塗り、シール貼り

- ア 過去に浸水した場所、浸水想定区域（洪水ハザードマップ参照）
 - ・過去に浸水した範囲及び浸水想定区域を「水色」 に塗りましょう。
- イ 過去に土砂災害が発生した場所、土砂災害危険箇所、土砂災害警戒区域など（土砂災害ハザードマップ参照）
 - ・過去に土砂災害が発生した場所及び土砂災害危険箇所、土砂災害警戒区域などを「茶色」 に塗りましょう。
- ウ 危険箇所
 - ・ア、イ以外及び地震で危険と思われる箇所に「●赤色シール」を貼りましょう。併せて、危険である状況も書き入れましょう。
例）転倒、落下、倒壊時に危険となる設備（燃料・毒性の高い物質貯蔵庫、ブロック塀、石垣、屋外広告物）
- エ 要配慮者（避難行動要支援者）
 - ・災害時に避難等の支援が必要とされる方（居宅）に「●黄色シール」を貼りましょう。



(3) 地域の「人的、物的防災資源」の確認及びシール貼り

- ア 公的機関
 - ・官公署、医療機関などの機関・施設に「●緑色シール」を貼りましょう。施設の名称や電話番号がわかるようテプラなどで表示しましょう。
例）市役所、消防署、警察署などの国・県・市の機関、学校、医療機関、公会堂、集会所、ヘリポートなど
- イ 防災に役立つ施設
 - ・地域防災に役立つ施設に「●青色シール」を貼りましょう。施設の名称などを書き入れましょう。
例）防災倉庫、消火栓、防火水槽、井戸など
- ウ 防災に役立つ人材
 - ・地域防災にとって重要な人材に「緑色マジック」で「人」を記入し、具体的な役職名を書き入れましょう。

例) 自治会長、町内会長、地域防災リーダー、消防団員、行政・消防・自衛官とそのOBなど

(4) 「防災まち歩き」の準備

- ・「D I G」で書き入れたマップ情報の確認をしましょう。
- ・危険箇所、防災施設などの確認をしましょう。
- ・確認ができたならグループで「防災まち歩き」のルートの作成をしましょう。
- ・「防災まち歩き」の所要時間は1時間～1時間30分程度にしましょう。

Ⅲ 「防災まち歩き」の実施

「D I G」で作成したマップの情報の現地確認と合わせ、補足する情報を調査します。

1 確認、調査の内容

- ・「D I G」で書き入れた危険箇所、防災施設などのマップ情報の確認
- ・新たな危険箇所などのあぶり出し（ブロック塀、石垣、看板などの屋外広告物、電柱や変圧器、石燈籠など）
- ・「防災マップ」に現地の様子を表示するための写真撮影
- ・避難場所や避難経路の確認（危険な場所を避ける）
- ・避難体制の確認（要配慮者の対応など）

2 持ち物

- ・「D I G」で作成したマップ
- ・マップ用の画板
- ・筆記用具（マジックやボールペン）
- ・ふせん紙及びメモ用紙
- ・デジタルカメラ

3 役割分担

- ・グループリーダー（経路確認、引率）
- ・安全管理（交通事故防止）
- ・記録（「D I G」マップへの追加記入）
- ・写真撮影



Ⅳ 「防災マップ」の作成

「D I G」と「防災まち歩き」の実施を踏まえて、町内会全体の「防災マップ」を清書します。

1 準備するもの

- ・都市計画図などの縮尺が2500分の1程度の図面
（相談に応じて危機管理課で拡大コピーします。）
- ・油性マジック（クレヨン、色鉛筆でも可）
- ・カラーシール

- ・写真（5×4 cm程度に縮尺して）
 - ・「〇〇町防災マップ」などの表示、「地図記号（凡例）」も作ります。
- 2 完成した「防災マップ」から防災対策を検討
- ・地震、水害、土砂災害それぞれの事象により対応に違いがあります。
 - ・地震は、発生後の対応が中心となります。
 - ・主に雨に起因する水害、土砂災害は、事前、災害発生時、事後と対応を分けて考えます。

3 地図記号などの凡例（統一基準）

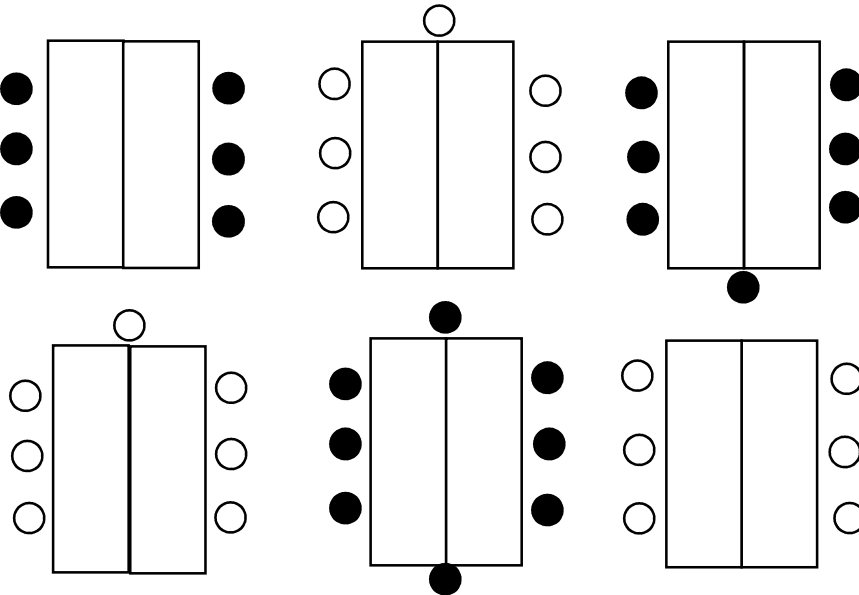
施設	記号等	施設	記号等
第一次市指定避難所		主要・幹線道路	 オレンジ色
いっとき一時避難場所		2m未満の道路、路地	 ピンク色
避難経路		鉄道	 黒色
防災倉庫、消火栓、防火水槽、井戸	例)  防災倉庫	広場・公園・オープンスペース	 黄緑色 
要配慮者の居宅	 要	河川・水路	 青色 
市・県・国の機関	例)  島田市役所 37-1111	浸水想定区域	 水色 
消防署	例)  島田消防署 37-0119	土砂災害危険区域	 茶色 
警察署	例)  島田警察署 37-0110	鉄筋コンクリート造建物	 紫色
医療機関	例)  〇〇医院 36-XXXX	S56以前の木造建物	 黄色
公会堂・集会所	例)  〇〇町公会堂 36-0000	空き家などの建造物	 青色
ヘリポート	 H	その他の危険場所	 危  赤色

4 「防災マップ」の更新・活用

- ・毎年、「防災マップ」の見直しをしましょう。
- ・「防災マップ」を変更する箇所が明らかになった場合には、その都度、加除修正をしましょう。
- ・できることなら、町内全戸に「防災マップ<縮小版>」を配布して情報の共有と日ごろからの備えに役立てましょう。
- ・「防災マップ」を活用した訓練などを検討しましょう。

<資料1> マップ作成の会場づくり

- ・マップが広げられるよう、机を2本あわせませす。
- ・作業がしやすいよう、机との間隔を確保します。



<資料2> 4×3印刷の方法

- ・手順のとおり印刷します。

「島田市」で地図検索
地域はスクロールして探します。

手順1
印刷する中心位置および縮尺を、左の地図でスクロールや地図検索などを使って決めてください。

手順2
地図を印刷する1枚印刷の枚数を決めてください。
横に何枚? 4枚
縦に何枚? 3枚

手順3
下記ボタンで印刷ページが表示されるので、ブラウザの印刷機能を使って印刷してください。

手順4
出力された用紙を、のりやホチキスなどお好みの手段で張り合わせれば巨大地図のできあがりです。

拡大は最大にします。

横に4枚、縦に3枚を設定します。